

第57回関東甲信越地区中学校技術・家庭科大会  
《第5分科会 家族・家庭生活 富士見中学校会場》

## 技術・家庭科学習指導案

長野県研究テーマ

### 共に拓く技術・家庭科の学習

第5分科会研究テーマ

地域の様々な世代の人との関わりを通して、  
協力・協働する資質・能力を育む「家族・家庭生活」の学習



助言者 長野県教育委員会教学指導課 指導主事 赤羽美和子 先生

題材名 「家族や地域の一員としてできることを考えよう」

期 日 平成30年10月26日（金） 9：40～10：30

授業会場 富士見町立富士見中学校 体育館

授業学級 3年3部（男子16名 女子15名 計31名）

授業者 白子 真由美 教諭

# 学習指導案

- 1 題材名 A 家族・家庭と子どもの成長  
「家族や地域の一員としてできることを考えよう」

## 2 題材設定の理由

富士見町は八ヶ岳と南アルプス北端の入笠山に挟まれ、標高約 1000m を超える高原に位置した自然豊かな町である。また、約 15,000 人が暮らしており、そのうち 14 歳までの子どもが約 2,000 人、65 歳以上の高齢者が 5,000 人弱の町である。

富士見町は地区ごとの結びつきが強く、子ども会が関わる地区ごとのお祭りやお泊まり会などの行事が行われており、多くの中学生はその行事を楽しみにし、積極的に参加している。中でも、3年生は子ども会の中心に立って活動したり、責任を持って取り組んだりしている。

また、富士見町の地域の行事として毎年7月下旬に開催されている夏祭り「富士見OKKOH」は地域の活性化を担う大きな行事となっており、多くの中学生が参加している。お祭りの主催者側も地域の子もたちが将来、自分たちの地区を支え、引っ張っていく存在という考え方にに基づき、中学生の参加を強く勧めている。しかし、中学生の意識は、地区ごとの行事とは違い、あくまでもお祭りに行くという遊び感覚であり、中学生同士で楽しく参加するだけの形になっている。このように地区の行事と同じであるにも関わらず、参加の意識が異なるのは、地区の行事には地域の方や家族から参加の意識について話を聞いたり、行事の役割を担っていたりする一方、「富士見OKKOH」では、意義についての話を聞く機会や担う役割がないからではないかと思われる。つまり、「富士見OKKOH」だけではなく、地区の行事に携わる本当の理由や、中学生は家庭や地域の担い手という意識が十分に育っていないためではないかと考えた。

そこで本題材では、第1時に生徒達の育ちと地域との関わりを確認し、今の自分たちの地域で求められている役割をどう担っていけばよいかという課題をもつ。第2時からはその課題を解決するために、家族、幼児、高齢者など、同じ地域で暮らす様々な人たちの特性や役割を理解したり関わったりしながら学習を行う。まず、保健師さんや保育園の園長先生といった、地域の中で私たちの成長を見守ってくださっている方々からの話を聞き、地域の様々な方々に育てられた自分の存在に気づきながら、人の成長と発達を知る。それらをふまえて幼児の特徴を理解し、おもちゃをツールとして幼児が成長発達できるような関わり方を考え、実際に幼児と触れ合う。また、地域で暮らす高齢者との関わりを考える中では、身体的な特徴を理解する疑似体験を行ったり、高齢者の助けが必要な場面を地域の方々と一緒に考えたりする中で高齢者は大切な存在であるという意識を高める。幼児、高齢者との関わりや存在の大切さを学んだ上で「富士見OKKOH」主催者のお祭りに対する思いを聞き、今までの自分達の参加の仕方を振り返りながら、祭りや地区の行事だけでなく、家庭や地域のために、今、自分ができることや今後の自分ができることを考える。

このような学習を通して、自分の家族や家庭、さらには地域社会を見つめ直し、今後、自分たちは周囲の人々とのように関わり、どのようなことができるかの考えを持つことで、将来の家庭や地域と協働していくことの大切さを感じ、地域の担い手としての意識が高められると考え、本題材を設定した。

## 3 題材の目標

- ・家庭や地域で暮らす幼児や高齢者について関心をもって学習活動に取り組み、家庭や地域の中で生活をよりよくしようとしている。(生活や技術への関心・意欲・態度)
- ・家庭と地域について課題を見つけ、その解決を目指してそこで暮らす幼児や高齢者の特徴に応じた関わり方を工夫している。(生活を工夫し創造する能力)
- ・幼児や地域の方々との関わりについて、観点に基づいて観察し、考えをまとめたり、実践したりすることができる。(技能)
- ・幼児や高齢者の特徴や生活、家庭や地域との結びつきについて理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。(生活や技術についての知識・理解)

4 展開の概要（全17時間）と評価

学習問題	学習活動	指導と評価	時間	カリキュラムマネジメント
1 私たちにとっての家庭、地域とはどのようなものだろう	○自分の家庭や地域との関わりを振り返り、地域のお祭りを通して地域の課題や私たちにとっての家庭や地域の役割を知る。	○地域活動に参加する立場から自分たちが家族や地域の一員としてできることは何かという題材を貫く問いをおさえる。	1	
<b>題材を貫く問い 『家族や地域の一員として私ができることとは何だろうか?』</b>				
2 私たちはどのように成長しているのだろう	○保健師さんの話を聞きながら、人の成長と発達を知る。 ○地域の中で育ってきた自分の存在について気づく。	○保健師さんの話を基に出生から幼児期の発達の特徴について理解できるようにする。 ・ <u>幼児の発達について理解することができる。</u> 【知】	2	
3 幼児の生活にはどのような特徴があるのだろう	○ビデオによる園長先生からの話を聞き、幼児にとっての遊びの意義を考える。	○園長先生の話から、幼児にとっての遊びの意義や遊び方の特徴を理解できるようにする。 ・ <u>幼児の生活と幼児にとっての遊びの意義と発達の特徴について理解できる。</u> 【知】	1	総合的な学習 未就学児 ・幼児との触れ合い体験
4 学習してきたことを活かして、私たちは何ができるだろう	○幼児との関わり方やそのツールとなるおもちゃを考える。 ○保育園訪問時に教室にあるおもちゃでどのように遊ぶかを考える。	○幼児期の特徴を踏まえ、限られた材料と時間の中で、遊びを通して幼児の発達を促すようなおもちゃを考えられるようにする。 ・ <u>幼児の発達を意識したおもちゃを考え、工夫することができる。</u> 【工】	1	・おもちゃ製作
5 幼児が成長発達するために、私たちができることは何だろうか（触れ合い体験）	○幼児の発達を促すことのできるおもちゃを、体験でとらえた幼児の特徴や、既習の内容をふまえて、友達と意見交換をしながら決め出す。 ○考えたおもちゃで幼児と触れ合う。	○幼児の発達を促すことができるようなおもちゃやその遊び方を考えられるようにする。 ・ <u>おもちゃを考える上での対象児の特徴と発達をふまえて、幼児が楽しめるおもちゃを決め出している。</u> 【工】 ○安全面に配慮して遊べるようにする。 ・ <u>自分達が考えてきた遊び方と実習で新たに気づいたことをもとに幼児の特徴や関わり方をまとめることができる。</u> 【技・知】	3	総合的な学習 高齢者 ・高齢者の現状について ・認知症サポート講座 ・高齢者との触れ合い（清泉荘訪問）
6 家族の一員として私ができることは何だろうか	○幼児との関わりの中から、周囲の人々はどのように関わればよいかを考える。 ○年齢に応じた家庭の中での役割を確認し、今の自分ができることを考える。	○園長先生から幼児との接し方についての感想や今後中学生に期待していることなどの映像を見て、周囲の人の関わりについて考えられるようにする。 ・ <u>家庭の中での役割を振り返り、自分にできることを考えることができる。</u> 【工】	1	道徳 郷土を愛する 思い
7 地域で暮らす高齢者について、どのように関わればよいだろう	○自分の地区の高齢者について事前に調べたことから、地区の実態や高齢者の不安な思いを知り、地域の中でどのような存在か考える。 ○高齢者も参加する地区の避	○学校周辺の高齢者世帯を表示しながら富士見町や自分の地区の高齢者世帯が多いことを知る。 ○地域のために果たしていることに目を向けられるようにし、地域にとって大切でかけがいのない存在であるこ	1	

	難訓練においてどんな関わりができそうか考え始める。	とに気づくようにする。 ○地区の避難訓練で高齢者と一緒に避難する場合に関わって高齢者の特徴で知っていることやわからないことに気づけるようにする。 ・ <u>自分の地域に関心を持ち、高齢社会の状況を把握できる。【関】</u>		
8 高齢者にはどのような身体的な特徴があるのだろうか	○高齢者疑似体験（手足、視覚、聴覚）から高齢者の身体的特徴に気づく。	○社協の方の話を聞き、実際に疑似体験をして、高齢者の特徴や関わり方が理解できるようにする。 ・ <u>疑似体験と、社協の方の話から高齢者の特徴に気づくことができる。【関】</u>	1	
9 高齢者の身体的特徴を知った上で、どのように関わればよいだろう	○高齢者の身体的特徴をまとめる。 ○避難訓練の場面を設定し、一緒に避難する対象の高齢者の特徴を確認する。	○疑似体験や日常の経験から特徴をまとめられるようにする。 ○避難訓練の場面において、避難する場所や対象の高齢者を明確に示して考えられるようにする。 ・ <u>場面を想定して高齢者の特徴を理解し、関わり方を考えることができる。【知】</u>	1	
10 地域で暮らす高齢者とのどのように関わればよいだろう（前半）	○高齢者と一緒に避難する時に、どんなことに気を付ければよいか班で考える。	○疑似体験で自分が感じたことをもとに注意することを考えられるようにする。 ○地図を使いながらどのように避難するか考えられるようにする。 ・ <u>対象の高齢者の特徴に配慮した関わり方、避難方法やルートを考えることができる。【工】</u>	1	
11 地域で暮らす高齢者とのどのように関わればよいだろう（後半） 【本時】	○地域の方にアドバイスをもらいながらよりよい関わり方を一緒に考える。 ○自分の地区の高齢者に対して普段からできることを考える。	○地域の方に高齢者の心情面も考えられるようなアドバイスをいただく。 ・ <u>自分の地域で暮らす高齢者に対して、日常でできる関わり方を考えることができる。【工】</u>	1	
12 中学校での学習を活かして、地域のために私ができることは何だろうか	○地域のお祭り「富士見OKKOH」の主催者の思いを聞く。 ○「富士見OKKOH」で自分達ができることを考える。 ○今までの家庭科の学習を振り返り、家族や家庭、地域を見つめ直し、今後自分達がどう関わっていくか考える。	○「富士見OKKOH」主催者のビデオインタビューを視聴し、お祭りへの思いを知り、その思いを受けて考えられるようにする。 ○「富士見OKKOH」で自分ができることについて班ごとに考えさせ、提示できるようにする。 ・ <u>今までの学習を活かして、今、そして将来、家庭や地域とどう関わっていくか考えることができる。【工】</u>	3	

5 本時の展開

(1) 小題材名 「地域のために私ができることは何だろう」

(2) 主眼

高齢者疑似体験を通して身体的な特徴を理解し、関わり方を考えてきた生徒が、避難訓練で高齢者と一緒に学校へ安全に避難する際に気をつけることを考える場面で、避難方法や関わり方を地域の方と共に検討することを通して、身体的特徴だけでなく心情面に配慮することの大切さに気づき、自分の地区で暮らす高齢者とのよりよい関わり方について考えることができる。

(3) 本時の位置 (17時間扱いの第14時)

前時：想定した避難訓練時、高齢者と一緒に安全に避難するにはどうしたらよいかを考える。

次時：町の最大行事である「OKKOH祭」の主催者の思いを受け止め、私たちができることは何かを考える。

(4) 指導上の留意点

- ・避難の仕方については経路だけの視点にならないように、高齢者との関わり方について考えられるようにする。
- ・地域の方と検討する場面では、高齢者の心情面にも着目できるように、地域の方と事前に打ち合わせをしておく。

(5) 学習活動と評価

<前半 第13時>

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・評価	時間
課題把握	学習問題：地域で暮らす高齢者とどのように関わればよいだろう			5
	1 前時の学習を振り返る。	ア) 高齢者は見えにくさや聞こえにくさの特徴があったな。 イ) 杖をついているおじいさんと一緒に避難するにはどうしたらいいのかな。		
学習課題：高齢者と一緒に避難する時、私はどんなことに気をつければよいのだろう				
追究・実践	2 避難訓練の場面設定を確認し、高齢者と一緒に避難する方法を個人で考える。	ウ) 早く避難したほうがいいし、歩くのも大変そうだから、学校まで一番近い道で避難しよう。 エ) 避難することを伝える時には、伝わるように正面に立ち、ゆっくりはっきり伝えよう。 オ) 車いすをおばあさんが押すのは大変そうだから、交代して自分で押そう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の自宅から中学校の体育館までの避難を考えるように伝える。</li> <li>・疑似体験で感じたことに触れながら、どんなことに注意したらよいか、考えられるように助言する。</li> <li>・高齢者世帯の家から学校までの地図に経路と注意点や配慮点、心配な点など自分の考えを書き込むように伝える。</li> </ul>	10
	3 個人で考えたことをもとに、班で考える。	カ) 杖を使っているから広い道のほうが歩きやすいよね。 キ) 階段よりはスロープの道にしよう。手をとって一緒に歩いてあげたほうがいいな。 ク) 見えにくいから危ない時には声をかけてあげよう。 ケ) 耳が聞こえにくいから、耳元で声をかけてあげよう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     &lt;話し合いの視点&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・経路は?</li> <li>・注意や配慮は?</li> <li>・心配なことは?</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班にも1枚地図を配付し話しながら書き込むように伝える。</li> <li>・避難経路のこのみ話が話の中心になっている班には、高齢者の特徴を振り返り、</li> </ul>	15

	4 発表し合い、全体で共有する。	<p>コ)足が不自由な高齢者の避難をよく考えているな。</p> <p>サ)これなら高齢者と一緒に避難できそうだな。</p>	<p>配慮すべきことはないか問う。</p> <p>・互いの考えを聞き合った後、地図にマジックで避難経路は赤色、注意点や配慮点は青色、心配なことや質問したいことは緑色の丸で囲むように伝える。</p>	12
整理・発展	5 本時の学習を振り返り、次回の活動を確認する。	<p>シ)行動がゆっくりで体に不自由さがあるので一番近い距離のルートが使えない場合があることがわかった。どういうふうにしたら安全に避難できるか考えてい。</p> <p>ス)実際に避難経路を書いてみると本当にこれでよいのか不安が出てきたから次回、聞いてみたい。</p>	<p>・考えた避難の方法が高齢者にとって本当によいものか問う。</p> <p>・次回、地域の方に来ていただくことを伝える。</p> <p>高齢者の特徴に配慮した避難を考えている。</p>	8

## 本時<後半 第14時>

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・評価	時間
課題把握	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>学習問題：地域で暮らす高齢者とどのように関わればよいただろう</p> <p>学習課題：どんな配慮が必要か、地域の方に不安なことを聞いて一緒に考えよう</p>	<p>ア)班員みんなですっかり考えられたから、見てもらいたいな。</p> <p>イ)この考えでいいのか不安だから地域の方に聞いてみたいな。</p>	<p>・来ていただいた地域の方々を紹介する。</p>	3
追究・実践	<p>2 前時に考えた避難の方法を、地域の方に伝えて一緒に考える。</p> <p>3 発表し合い、全体で共有する。</p>	<p>ウ)この避難経路のほうが広くて歩きやすと思ったけど、地域の方が言っていたように、学校まで近い道のほうがいいんだな。</p> <p>エ)災害時は不安になるから、常に声をかけていくことも必要なんだな。</p> <p>オ)ただ、「大丈夫」と声をかけるだけでなく、「もう少しですよ」と声をかけるようにしよう</p> <p>カ)見えにくさがあるおじいさんだから足元だけではなくて周りの様子も伝えたほうが安心できそうだな。</p> <p>キ)安全な避難経路と安心できるように声をかけることの両面から高齢者の気持ちを考えること</p>	<p>・地域の方には高齢者の心情面も考えられるようなアドバイスをしていただく。</p> <p>・新たに加わったことを中心に発表してもらおう。</p> <p>・避難経路や関わる高齢者に</p>	20 10

		<p>が大切なんだな。</p> <p>ク)どの班も安心できるように声をかけていたな。やっぱり、声をかけながら避難することは大切なんだな。</p>	<p>違いがあっても関わり方は同じであることをおさえる。</p>	
整理・発展	4 自分の地域の高齢者に対して、普段、私ができることを考える。	<p>ケ)すれ違う近所の方などにあいさつを欠かさずしたり積極的に話かけたりと交流をもっておいて、災害時などには安心してもらえるように少しでも関わる。</p> <p>コ)お店に行った時、商品を探すのに困っていたら声をかけて一緒に探す。登下校で出会ったら声をかけてあいさつをし、時間があったら話をしたい。</p>	<p>・特別なことではなく、普段の生活の中で高齢者に対してできることを考えるように伝える。</p> <p>自分の地域で暮らす高齢者に対して、日常でできる関わり方を考える。</p>	10
	5 振り返りカードに記入をする。	<p>サ)自分達だけではわからない注意すべき点や危険な所を地域の方と一緒に考えることができた。場所やルートだけでなく、どんな時にどのように声をかけたらよいかも考えられた。</p> <p>シ)高齢者の特徴や気持ちを知った上で何をすることが大切だと思った。声をかけたり手伝ったりと小さなことでもやってみるのがよいと思った。</p>		7

## 6 討議の柱

- ①「地域の避難訓練に参加する、3つの場所から3パターンの高齢者と学校に避難する」という場面設定は実際の避難を想定して高齢者への具体的な関わり方を思考することにつながったか。
- ②地域の方々に来ていただいて一緒に話し合ったり、グループで考えたりしたことは、高齢者の特徴の理解をさらに深め、地域の高齢者への関わりや思いを持つことにつながったか。

<資料① 設定場面と対象となる高齢者>

A~Cそれぞれの場所には①~③の高齢者がいる。9班あり、一班ずつ、一つの場所、一人の高齢者について考える。

①

自分で歩けるが  
行動がゆっくり  
で耳が聞こえに  
くいおばあさん



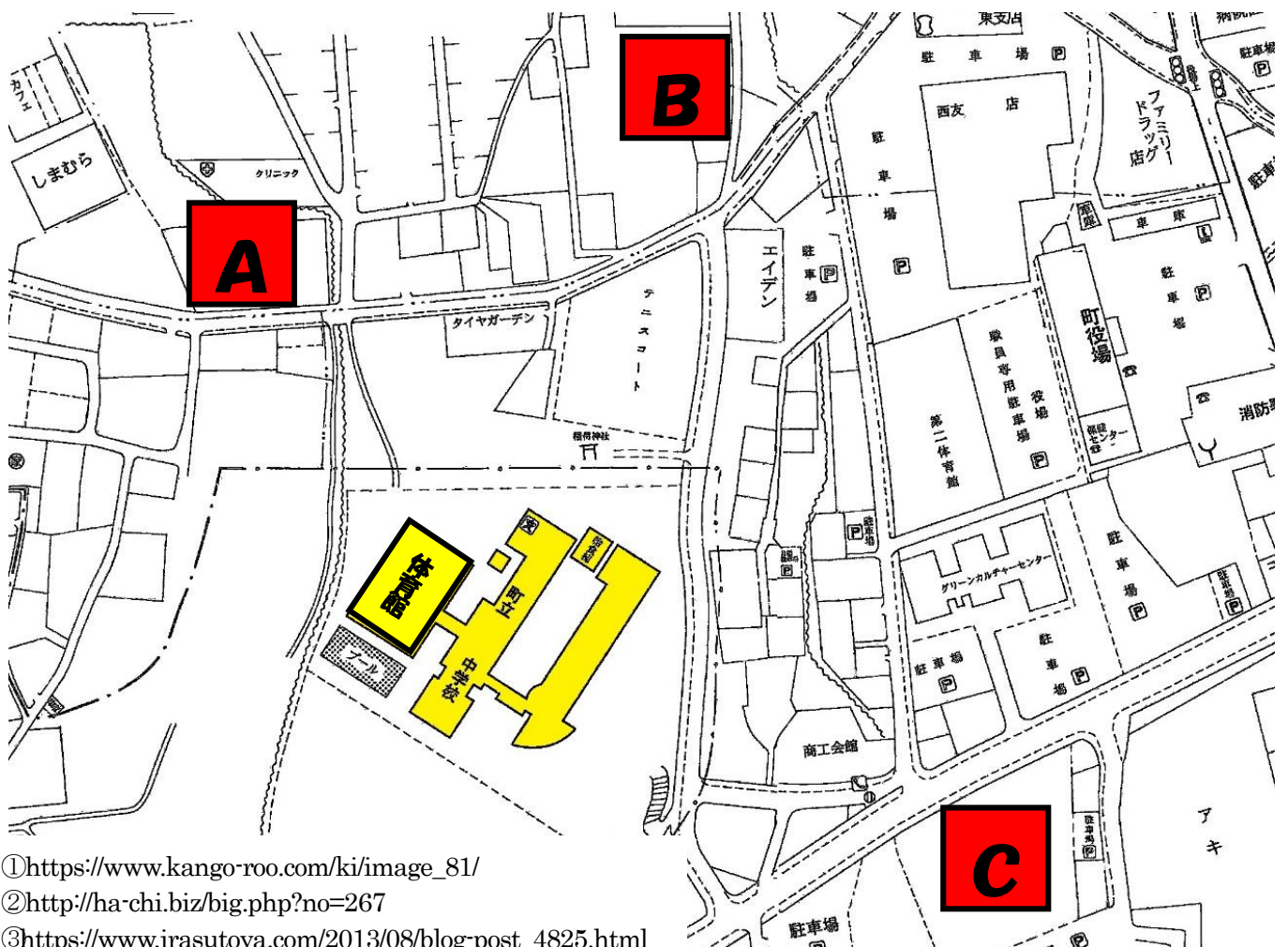
②

足腰が弱く、歩く  
には杖が必要。視  
野が狭く、見えに  
くさがあるおじ  
いさん



③

シルバーカーを  
使用すれば自力  
で歩けるが視野  
が狭く、見えに  
くさがある  
おばあ  
さん



① [https://www.kango-roo.com/ki/image\\_81/](https://www.kango-roo.com/ki/image_81/)

② <http://ha-chi.biz/big.php?no=267>

③ [https://www.irasutoya.com/2013/08/blog-post\\_4825.html](https://www.irasutoya.com/2013/08/blog-post_4825.html)



<資料② 班用学習カード> 9パターンのうちの1パターン分です。

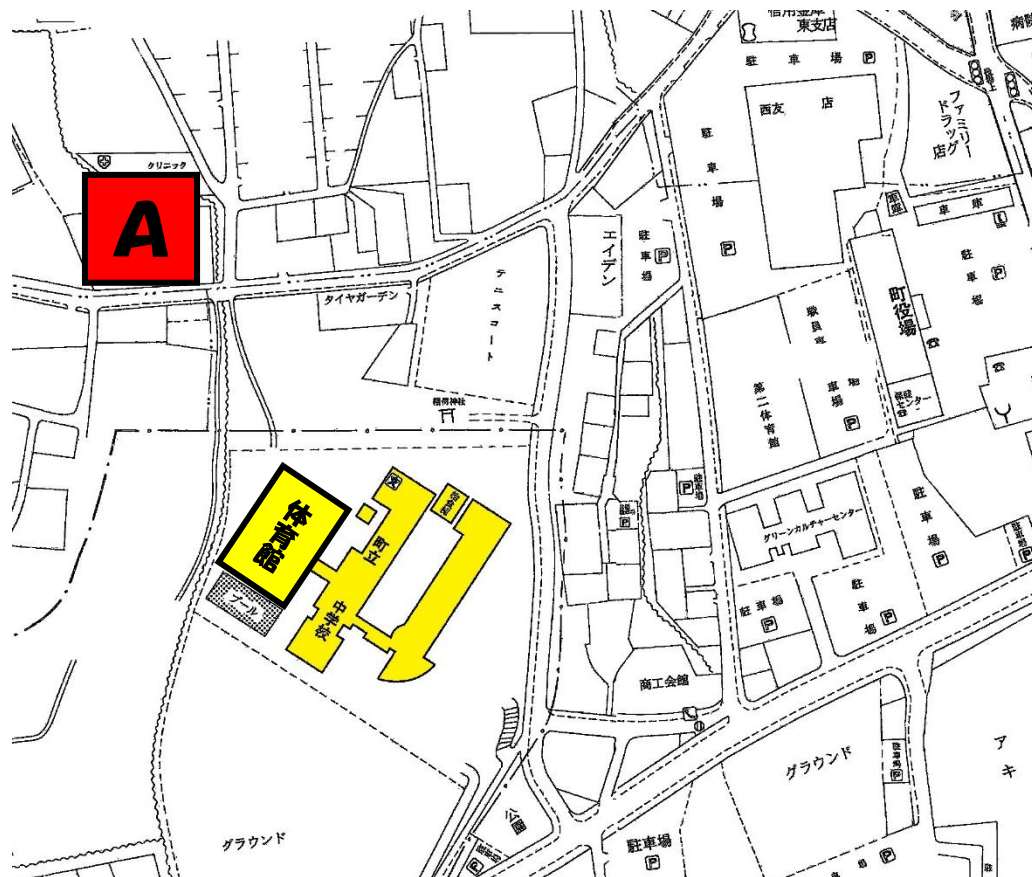
部 班

<場面>

学校周辺の地区の避難訓練に参加します。避難場所は中学校体育館。避難する中には高齢者がいます。中学校体育館へ避難しましょう。ただし、体育館1Fの入り口は本部となるため、使用できません。ただし校舎は開いています。

<特徴>

自分で歩けるが行動がゆっくりで、耳が聞こえにくいおばあさん



<資料③ 個人用学習カード>

技術・家庭科 学習カード

地域に暮らす高齢者

3年 部 番 氏名

【題材全体を貫く問い】

**家族や地域の一員として、私ができることとは何だろう**

学習問題： 地域で暮らす高齢者とどのように関わればよいだろう？

Memo

